

開催報告

くにたちデビューコンサート vol.15

ゲーテ編

ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスター』の詩情

～歌曲・朗読・挿絵で描く、その世界～

戦争と音楽編

戦火に散った歌曲たち



くにたちデビューコンサートは、

国立市と国立音楽大学との間で**包括連携協定**が締結されたことを踏まえ、(公財)くにたち文化・スポーツ振興財団では、芸術環境創造事業における学校連携事業に位置づけたプログラムを実施しています。国立音楽大学の優れた若手演奏家による音楽活動の継続を、地域の卓越した芸術文化資源として、優れた芸術に触れる観客の裾野を広げていくために、公演運営や舞台技術の知見とプロフェッショナルな音楽家の創造性を共有しながら、ともに舞台を創り上げていく共創的な事業です。くにたち市民芸術小ホールでは、ひとりでも多くの方々に芸術の愉しさに触れていただき、次世代に受け継がれていくような試みを今後も行っていきたいと考えています。

主催：(公財)くにたち文化・文化スポーツ振興財団 協力：国立音楽大学 後援：国立市教育委員会

お問合せ：くにたち市民芸術小ホール 〒186-0011 国立市富士見台 2-48-1 042-574-1515 hall@kuzaidan.or.jp



概要

前年度より引続きの取り組みとして

- (1)内容の理解を助ける工夫
- (2)非日常、特別なプログラム

を念頭に置き、構成を検討した。

国立音大で博士号取得した筒井紀貴氏に依頼。歌曲を中心としたプログラムを企画。歌詞のある音楽と言えば馴染み深いものの、歌曲というジャンルはまだ浸透度が浅いため、入門的内容からより深く面白味を感じられるプログラムを検討。筒井氏の構想により、ゲーテの長編小説をテーマとし、朗読と挿絵で演出した『ゲーテ編』、戦没作曲家をテーマとし、近年発見された日欧の作曲家の曲とともに、タイムリーかつ重く扱いの難しい戦争について思いを馳せる『戦争と音楽編』の2公演を実施した。

朗読・挿絵を外注することで多くの共演者と繋がることができ、それぞれの専門的・多角的視点から公演を制作することによって、舞台芸術として完成度の高いものとなった。また、くにたちデビューコンサートシリーズとしては1シーズン2公演の歌曲シリーズとしたことも新たな試みとなった。

プログラム

ゲーテ編 ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスター』の詩情
～歌曲・朗読・挿絵で描く、その世界～

2023年1月21日(土) 15:00(14:30 開場) 17:00 終演

第一部 シューベルト/野ばら ガンユメート 糸を紡ぐグレートヒェン シューマン/君を想う ブラームス/現象 リスト/ミニョンの歌 チャイコフスキー/ただ憧れを知る者だけが

第二部 シューマン/ヴィルヘルムマイスターからのリートと歌 op.98a

筒井紀貴(ピアノ・演出・台本) 金持亜実(ソプラノ・ミニョン) 寺島弘城(テノール・豎琴弾き)

岡うらら(ソプラノ・フィリーネ) 関口直仁(朗読) 水本紗恵子(挿絵・映像オペレーター)



第一部は有名な作曲家の有名な作品を中心に構成、親しみやすく定番の美しい歌曲を楽しんでもらう導入部分とした。肝となる第二部では曲の背景となる場面を原作小説の朗読と完全オリジナルの挿絵で演出、さらに歌手が訳詞を情感たっぷりに朗読し歌曲の演奏へと繋がる構成とした。ゲーテの原作小説は長大であり、場面の中で実際に歌われるものもあれば、巻の終わりに作者からの手向けとして語られるものもあるが、シューマンの曲順

に従って第1場面から第8場面までを折々の絵葉書のように繋ぎ合わせるといった体裁をとった。たった90分程度で気軽に長編小説と歌曲の世界を味わえるという、類を見ない公演となった。

戦争と音楽編 戦火に散った歌曲たち

2023年3月18日(土) 15:00(14:30 開場) 17:00 終演

第一部 草川宏/星と花 黄昏 晩秋 葛原守/かなしひものよ 犬と雲 尾崎宗吉/初夏の小品 夜の歌 村野弘二/君のため 重たげの夢

第二部 マーラー/美しいトランペットが鳴り響くところ シュルホフ/一人の子に 秘密 七月 我が聖母像 奇しき薔薇 闇の中から 黄昏の平原の静けさ ハース/仕返し 愛の贈り物 涙とため息 ウルマン/定め 抗えぬ美しさ 森の中で 黄昏 夜 静寂 タベの幻想

筒井紀貴(ピアノ・構成) 金持亜実(ソプラノ) 狩野賢一(バスバリトン) 高木優帆(チェロ)

筒井茜(映像オペレーター)



第一部は4人の日本作曲家の作品を取りあげ、独唱・重唱、さらにチェロ参加の曲など、四季豊かな日本の詩に合わせて季節の流れに沿って構成。第二部は西欧の3人の作曲家を取りあげたが、その3人に大きな影響を与えたマーラーの作品から、戦争に赴く一人の兵士の悲哀を歌った曲をプロローグとした。2部本編は前半に大戦前の瑞々しい感性の貴重な歌曲を演奏し、中盤のMCでは作曲家たちが強制収容所内で創作活動を余儀なくされた経緯や社会背景を、現在のテレビジョン収容所のスライドとともに紹介。後半、大戦突入後の作品の変化を目の当たりにするという内容。言葉では尽くせない思いが舞台と客席を包み込むエピローグとなった。

制作についてと改善点

ゲート編については、背景とピアノの位置関係と、入れ代わり立ち代わり朗読と歌唱する都合上、9分割のせりをフレキシブルに活用、ピアノと歌手の位置を60センチ程下げ、他の部分も安全を考慮しつつも段差を設けることによって、結果として変化に富んだ場面演出へと繋がった。同時に、響きも確保するために変則的な配置をした反響版にも、LEDライトを当て効果的な演出とした。

フライヤー配布にゲート編は力を入れたが、一部配布先から追加連絡(駅舎や一橋大学など)がくるものもあり、配布先研究の必要性を感じた。戦争と音楽編は戦争が身近な高齢者と、昨今の社会情勢に敏感な層と様々なターゲット層が予想されたが、最終的にターゲットが絞り切れず、PR先・方法が的確に実施することが難しかった。

ゲート編の2部が内容の性質上長時間(約90分)となってしまった。休憩時間の調整を含めたプログラム構成も要検討。2公演の間隔が2か月と短かったため、ゲート編直前の準備期と戦争と音楽編PR期が同時並行となり、担当者の業務量が増加。戦争と音楽編のPRに十分な時間をかけられなかった。短期間の複数公演の場合、担当者を増やす、業務分担の効率化を測る、公演期間の調整などが必要。

筒井氏が現在は藝大の演奏センター所属という事情もあり、共演者や関係者が藝大関係が多くなったが、当初の趣旨どおり国立音大関係者の参加も増やしていきたい。(担当：竹内恵美子)

入場者アンケート結果 ①ゲート編/②戦争と音楽編

入場者数：①117名②71名 計188名 アンケート回収：①51枚②32枚 計83枚

Q1.どちらからお越しですか

国立市	24	八王子市	2	府中市	3	西東京市	3
国分寺市	5	立川市	3	三鷹市	1	武蔵野市	1
その他都下	3	都内近県	26	その他	12		

Q2.本日の公演は何によって知りましたか(複数回答可)

チラシ	29	駅掲示	3	公式サイト	1
オアシス	6	委託店	0	公式TW	1
掲示板	7	出演者	46	Confetti	1

Q3.本日の公演に来られた理由は何ですか(複数回答可)

クラシックに興味	42	開演時間	20	誘われた	29
声楽に興味	24	料金	13	近い	20
テーマに興味	34	出演者が良い	26	その他	1

Q4.本日の公演はいかがでしたか

とても良かった	64	良かった	14	まあまあ	2	あまり良くなかった	0
---------	----	------	----	------	---	-----------	---

自由回答(一例、原文より抜粋)

・小規模だと思いましたが、とても心が豊かになる壮大な舞台でした。うた、ピアノ、朗読、映像、すべてバランスがよく、第二部の演出も素晴らしかったです。プログラム解説も勉強になりました。

・これまで経験したことのない演奏会で、深い感動と共に帰宅しました。歌手の皆さんが、語られたその声で、歌われることが、歌に対する共感を感じずにはいられず、ミニヨンに、竖琴弾きに想いを馳せていました。素晴らしい公演をありがとうございます。次回を期待してやみません！

・クラシック音楽が好きだが、このような公演は初めてだったので感動しました。又、聴きたい観たい。一回の公演では勿体ないです。

・素晴らしい企画・演奏でした。一、二部とも終わりに胸が苦しくなりました。しかし、こうした芸術表現に、人間の希望を見出せる気もしました。

・戦火に散った歌曲と言うテーマで構成され、背景を知った上で聴くといっそう心に沁み入ります。映像・照明の効果もあいまって総合芸術として堪能させて頂きました。色々な曲調を次々と楽しめ、対訳もあり分かり易かったので、子供も連れてくれば良かったです。歌詞を見て、次はどんな映像かなと、想像しながら観ていました。刑務所内の曲がなぜ残されていたのか、歴史的背景を説明して頂き、聴きながら色々考えさせられました。歌詞を観て ズーン↓ って感じです。歌・演奏 素晴らしかったです、ありがとうございました。